

蜂須賀・蓮華寺界隈



浅井厚視

蜂須賀遺跡とは

あま市内の遺跡

① 弥生時代の遺跡

- 阿弥陀寺遺跡（弥生時代中期～後期）
- 森南遺跡（弥生時代後期）

② 古墳時代の遺跡

- 大渕遺跡
- ニツ寺神明社古墳
- 蜂須賀遺跡

区画整理に伴い、高坏・壺・甕

古墳時代前期（弥生時代～平安時代の複合遺跡）

③ 古代寺院

- 甚目寺、法性寺、清林寺、篠田廃寺



縄文→弥生→古墳 時代のとらえかた

いろいろな縄文土器を競争してつくった時代

三内丸山遺跡 貯蔵用から煮沸用・貝塚・竪穴住居・農
耕生活の開始・大きなムラ・とりひきの開始

戦うことが「えらい」と言われた時代

吉野ヶ里遺跡 台付甕・米作り・治水・高床式倉庫・貧富の
朝日遺跡 拡大・環濠集落・戦いの時代・逆茂木・銅鐸

卑弥呼・邪馬台国

「えらい人」は古墳や副葬品をつくった時代

大山古墳 須恵器・埴輪・前方後方墳から前方後円墳へ
西上免・断夫山 銅鏡・勾玉・管玉・記紀神話の伝承

日本武尊
大和王権

古墳から出土したもの

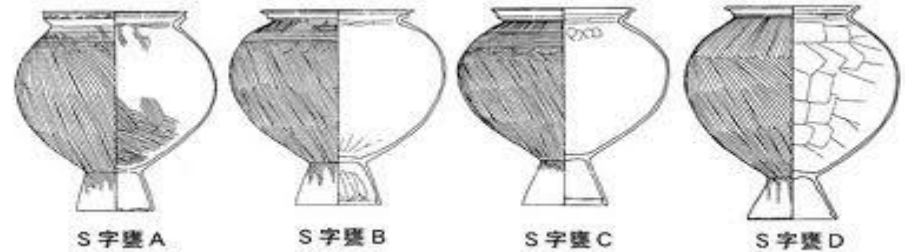
埴輪・・死者へのお供えと魔除けのため



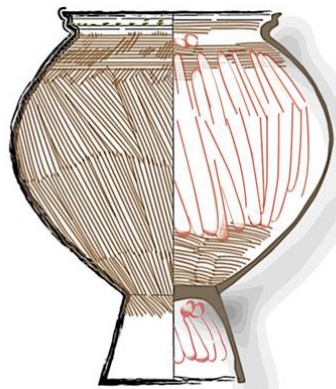
お供え土器→特殊器台→円筒埴輪
輪→壺型・朝顔型埴輪



S字状口縁台付甕の広がり



S字甕 (S字状口縁台付)



【東海系土器の移動】

廻間I式からII式にかけて、東海系土器が主に東日本に広く拡散する現象がある。第1次拡散期と呼んでいる。おおむね西暦200年前後と推定し、S字甕B類の登場が象徴的である。

廻間II式からIII式にかけて、再び東海系土器が広がる現象が見られる。それは、第1次拡散期とまったく異なり、西へ、近畿へ動き始める。おおむね西暦250年前後と推定。

森南遺跡

森南遺跡は、あま市森にある弥生時代後期の遺跡で、この遺跡からは多くの竪穴住居が見つかっています。壺・甕・高坏、矢じりなどが出土しています。



ニツ寺神明社古墳

あま市ニツ寺にある前方後円墳。愛知県の中でも最も古い、古墳時代前期につくられた前方後円墳と考えられる。

稲沢市南麻積町 富士社古墳 円墳郡の境界



稲沢市 築山古墳 込野町円墳 郡の境界



蜂須賀・蓮華寺界限

蓮華寺(れんげじ)

愛知県あま市蜂須賀にある真言宗智山派の寺院。山号は池鈴山。本尊は阿弥陀如来像。弘仁年間(810~824年)空海の開山により創建されたと伝えられる。この地から出たとされ阿波国徳島藩主となった蜂須賀氏の帰依を受け、尾張徳川家からも寺領が安堵されている。蜂須賀小六の菩提寺であり、蜂須賀小六・家政親子の位牌が安置されている。南西には、蜂須賀小六の旧宅や1ヘクタールに及ぶ蜂須賀城があったと伝わっている。



家祖小六正勝、蜂須賀（阿波）藩祖家政 による保護

家政は阿波藩主になってからも蓮華寺の「本堂」や「客殿」を寄進。家政没後も、阿波藩により「仁王門」を寄進。

一方蓮華寺は阿波藩に対して、武運長久の祈願札と榎の実を蜂須賀家に献上。（榎「かや」の木は小六正勝と縁があり奉納した木）



□蜂須賀小六正勝

大永6年(1526)尾張国海東郡蜂須賀生。秀吉との奇縁により織田信長・豊臣秀吉に仕える。桶狭間の戦い・姉川の戦い・長島一向一揆などに参戦活躍。備中高松城攻めを献策。後に秀吉の御側衆として働き、天正14年(1586)年没。

□蜂須賀家政

永禄元年(1558)生。現在の江南市で生まれたのが有力。山崎の戦い・賤ヶ岳の戦い・文禄慶長の役で活躍。関ヶ原の戦いでは自分は西軍に、息子至鎮(よししげ)は東軍につく。家政は出陣せず、高野山で出家。至鎮が初代阿波藩主となった。

